

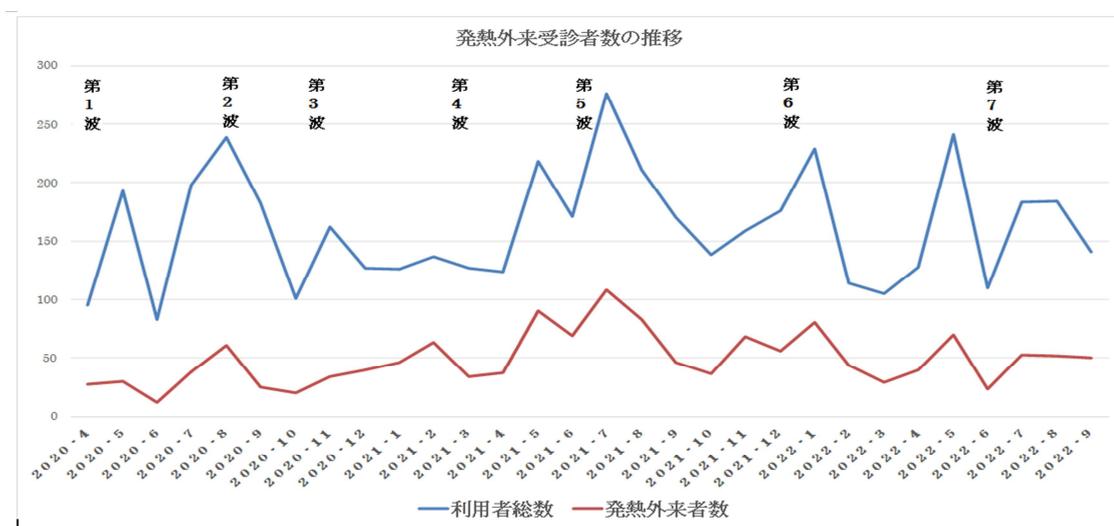
新型コロナウイルス感染症に関する受診状況と対応について 資料6

コロナ感染症の感染拡大初期より、奥越健康福祉センターと連携しながら発熱患者への対応マニュアルを作成し対応している。現在、対応マニュアル改訂版 ver 1.4（別紙）

1) 発熱・風邪症状を主訴とする患者の受診状況

	令和2年度	令和3年度	令和4年度 (4~9月)
利用者総数	1770人	2091人	987人
発熱外来受診者数	430人	746人	288人
利用者総数に占める割合	24.3%	35.7%	29.2%

令和2年度は、第2波・第3波の流行により、利用者総数の24.3%が発熱外来での診察対象であり、令和3年度は第5波・第6波の流行により、発熱外来受診者数は利用者総数の35.7%に増加した。令和4年度に入り、デルタ株からオミクロン株への変異を受けて、令和4年度は9月末で29.2%が発熱外来の対象者となっている。



2) 発熱・風邪症状のある患者からの問い合わせに対する相談

- ・ 幼児や高齢者を中心とした陽性者の増加により、家庭内感染が疑われ、濃厚接触者として症状が出現してきたため、どのような受診方法をとれば良いのか。
- ・ 職場から体調不良の際は医療機関の受診を義務付けられているが、自分は何のような行動をとれば良いのか。
- ・ 発熱したばかりで、解熱剤は手持ち分があるが、受診した方が良いのか。
→ 受診方法や、家庭や職場内での感染防止対策についての生活指導を行った。

3) 受診・相談センターとの連携状況

	令和2年度 (12~3月)	令和3年度	令和4年度 (4~9月)
電話問診後、センターを紹介した数	28人	143人	256人
センターからの紹介を受けた数	27人	124人	44人
医師診察後、センターを紹介した数	3人	19人	4人

4) 院内感染防止対策

感染症専用棟(発熱外来)には、空気清浄機、スリッパ殺菌消毒装置、フェイスシールド・防護眼鏡等の殺菌消毒装置を整備し、院内感染防止に努めた。また、医師看護師についても、个人防护物品を計画的に購入し、个人防护を厳格に順守することで、感染リスクの高い患者の受診にも対応するとともに、2次感染防止を図ることができた。

1. 発熱患者への対応マニュアル改訂版 ver. 1 4 改訂版

2022.9.14 改訂

- 1) 発熱のある患者は、すべて感染症専用棟で診察する。医師が各種抗原検査（新型コロナウイルスは除外）必要と判断した場合は、感染症専用棟に設置した専用 BOX で実施する。
- 2) 原則、感染症専用棟での診察は、患者 1 名ずつとする。小児科・内科患者が同時に来所した場合、看護師が症状・年齢から優先順位を判断する。
- 3) 全科において、原則患者の付き添いを禁止する。ただし、小児や要介護等の患者については 1 名までは許可する。

